NACSIS-CATを利用したオンライン目録作業 ー機械化へのワン・ステップとしてー

Cataloging through the NACSIS-CAT : in the
Medical Library & Information Center, Keio
University : One Step toward Total Computerization

永 崎 由紀子*

慶応義塾大学医学情報センター

Nagasaki Y. : Cataloging through the NACSIS-CAT in the Medical Library & Information Center, Keio University : One Step toward Total Computerization. Igaku Toshokan 1991 ; 38 (2) : 105-112.

The Medical Library & Information Center, Keio University connected up to the NACSIS (National Center for Science Information System) and started to register its currenting held books with the cataloging system the NACSIS-CAT in 1989. We use downloaded records only to make cards now, but we are preparing a total library system for the information centers in Keio University in conjunction with the NACSIS-CAT. This paper reports on how we can use the NACSIS-CAT in cataloging works in the process of becoming total computerization.

I. はじめに

学術情報センター目録システム（以下NACSIS-CAT）との接続事例はこれまで数多く報告されている。しかし、医学図書館として単独の報告はないようである。また、最近の例はすでに全業務を機械化した図書館のものが多く。慶應義塾大学医学情報センターでは1989年6月接続以来、徐々にNACSIS-CATを業務に取入れ、ようやく第一段階が軌道に乗ったところである。現在は第2段階、NACSIS-CATとの連動をふまえた学内5センター共同の全業務機械化に向けて準備に奔走している。接続館としては比較的新参者であるが、実務上の変化を中心に、初期段階の医学図書館の一例とし

て、当センターの経験を問題点も含めてご紹介する。今後接続を考えている図書館に判断材料を提供できればと思う。

II. 接続方法

当センターと学術情報センターとの接続は図1のとおりである。まず、学術情報センターと慶應義塾の本拠地である三田キャンパスにある大型計算機を専用回線で結んでいる。学内に5つある情報センターの内4センターがここを通してNACSIS-CATを利用している。学術情報センターとの接続は他にパケット網利用が可能であるが、対経費の計算で選択することになる。三田キャンパスから医学部のある四谷キャンパスはバスで20分ほどの距離なのだが、残念ながら計算機のネットワークとしては遠い。多摩川を隔てた神奈川県横浜市港北区にある日吉キャンパスを経て来ざるを得ない。計算機はすべて共用機で、計算センター

*Yukiko NAGASAKI : Medical Library & Information Center, Keio University, 35 Shinano-machi, Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan.

(1991年3月19日 受理)

図1. 学術情報センターとの接続¹⁾

という別組織が管理している。三田の計算機では登録したレコードをダウンロードしているが他は単に中継点に過ぎない。

この接続方法で不便なのは、計算機が共用で、図書館がメンテナンスをする必要はないものの他の部署の都合で使えない期間があることである。2月の入試時期に機密保持の問題から他業務は一切拒否されてしまう。また中継点が多いため、それぞれの定期メンテナンス、夏季休暇などの度に使えないことになる。レスポンスタイムが遅いのも、道のりが長いと思われる。

ハード面の事情は個々の図書館によって異なる。また図書館サイドだけではいかんともしがたいものもあるが、選択の余地があるのなら慎重な検討が必要となろう。

Ⅲ. 目録作業

当センターでは現在端末1台、図書目録担当者2名で年間約3,000冊受け入れる図書を原則として全件登録している。例外は非図書資料、内部資料の類のみである、他に、雑誌の担当者も学術雑誌総合目録データのオンライン更新、新規登録を同じ端末で行っている。現在のところローカルシステムは稼働しておらず、収書との連動、OPACはない。目録業務にのみNACSIS-CATを使い、利用者へはこのデータをもとにカードを打ち出し提供している。

現在の作業方法が確立したのは1990年4月で、接続当初の1989年9月から1990年3月までは、手作業でカードを作成する従来の方法と平行して、該当書誌がヒットしたもののみ所蔵を登録するという、いわば二重の目録作業を行っていた。端末のオペレーションやMARCによる目録に慣れるためである。

作業の手順として、図2のとおりいったん画面コピーを出し、チェック後に登録を行っている。

図2. NACSIS-CATを使った目録作業の流れ

これは、担当者2名がそれぞれの目録作業（記述及び主題）をシート上で確認しているためである。また統計をとる際のワークシートとしても画面コピーを利用している。端末に向かう時間を少なくするという効果もある。なお、書誌はヒットさえすればたいていスペルミスの修正、注記の補い程度で済むので、記述のチェックのためだけならすべてについてアウトプットをだす必要はないだろう。

主題目録作業は具体的にはMeSHの付与、NLM分類付与および請求記号決定である。洋書はこの2つの主題情報を含んだLC/MARCからの流用レコードが多く、そのまま利用できる。翻訳ものの和書も、同様に原書のレコードを参考にできる。手作業の時もCIPデータ、NLMのCurrent catalogを利用してきたが、オンラインアクセスでより簡単に、安価にこれらの情報を得られるようになったわけである。

作業の能率に大きく影響するものに書誌のヒッ

表 1. NACSIS-CAT登録件数とその内訳 (1989.7-1990.12)

(和書)

	NC	(%)	流用	(%)	オリジナル* ¹	(%)	登録計	(%)	未登録	(%)	登録対象計* ²
1989年度	430	51.8%	129	15.5%	0	0.0%	559	67.3%	271	32.7%	830
1990年度	439	66.2%	78	11.8%	146	22.0%	663	100.0%	0	0.0%	663
合計	869	58.2%	207	13.8%	146	9.8%	1,222	81.8%	271	18.2%	1,493

(洋書)

	NC	(%)	流用	(%)	オリジナル	(%)	登録計	(%)	未登録	(%)	登録対象計
1989年度	342	53.2%	264	41.1%	0	0.0%	606	94.2%	37	5.8%	643
1990年度	492	60.4%	293	36.0%	30	3.7%	815	100.0%	0	0.0%	815
合計	834	57.2%	557	38.2%	30	2.1%	1,421	97.5%	37	2.5%	1,458

*¹ 1989年度はヒットしないものは登録しなかった。したがってオリジナル入力はない。*² 登録対象外は数に含んでいない。

ト率がある。表1が当センターの登録統計である。和書、洋書に差はあるが大半はヒットするという印象である。NCファイル(総合目録ファイル)の書誌レコードはすでに接続館の手で完成されており、これにヒットすれば最も簡単に登録作業ができる。和書、洋書とも1989年から1990年にかけてNCヒット率が目に見えて向上している。接続館が1990年3月末で126(うち医学関係図書館43)、1991年2月末で150(同47)と確実に増えており、スケールメリットの現われといえよう。

当センターが登録開始にあたって懸念していたのは和書のヒット率である。ひとつは医学関係の図書館がどのくらいNACSIS-CATを利用してゐるか不明であったし、もうひとつは参照MARCのタイムラグの問題がある。一般に医学図書館で受け入れる図書はほとんどが新刊で、利用に即して受入から整理までの時間も短い。当センターの図書についてMARCによる整理の可能性を調査した玉井の報告²⁾もJAPAN/MARCのタイムラグの大きさを指摘し、実用には適さないとしている。またもうひとつの参照MARCであるTRC-MARC

表 2. ヒット率の比較 ³⁾ (単位%)

(和書)

対象書誌	入力年	NC	流用	NC+流用
NC全体	～1989年	73.2	18.6	91.8
NC新刊書	1986～89年	—	—	95.5* ¹
当センター	1989年度	51.8	15.5	67.3* ²
当センター	1990年度	66.2	11.8	78.0

(洋書)

対象書誌	入力年	NC	流用	NC+流用
NC全体	～1989年	54.2	32.1	86.3
NC新刊書	1986～89年	—	—	89.8
当センター	1989年度	53.2	41.1	94.3
当センター	1990年度	60.4	36.0	96.4

*¹ NACSIS-CAT 稼働の1986年～調査時点の1989年出版のNCファイル中の全レコード＝カレントに入力されたと思われるレコード*² 1989年度は1989.7～1990.3, 1990年度は1990.4～1990.12

はタイムラグこそ小さいものの医学専門出版社の図書については網羅性に不安がある。

利用の結果、予想より高かったNCのヒット率のおかげで流用と併せれば実務に差し支えはなかった。しかし、NCレコード全体のヒット率と比較すると、たしかに和書率は低い(表2)。理由は前述のとおりだろう。年々上がるNCのヒット率に期待したい。

今後機械化が拡大し、収書、ないしは発注段階で書誌が必要になった場合は当然ヒット率は落ち、NACSIS-CATからの書誌取り込みはあまり期待できないだろう。しかし目録段階になればかわらず高率でMARCの提供を受けることができる。

入力に要する時間は、対象とした書誌によってかなり違う。よってほんの一例として受け取って頂きたいが、当センターでの実験をもとに推計すると、事前にある程度入力事項をかためておき検索から登録を一度に流すとする、1件につき約4分から10分かかる。これを長いと感じるか、短いと感じるかは人それぞれだろう。書誌的には医学図書館で収集する図書は人文・社会科学分野と比較すると簡単だが、当センターは端末のレスポンスは遅い。

もちろん、つまづくものがあるとさらに大幅に時間をとられる。最も不運なのは「重複書誌」「重複典拠」を発見、もしくは自ら作ってしまうという事態である。重複レコードは、NACSIS-CATが、書誌ユーティリティであると同時に総合目録であるという性格から、厳に禁じられていることで、これを発見したら責任をもって処理しなければならない。基本的にはこの目録システムは図書については、書誌、典拠レコードは誰でも修正が可能という柔軟なシステムなのだが、その分参加館の自覚に期待しているともいえる。

ほかに通常の作業で手間がかかるといわれることに典拠作業がある。おもに運用されているのは著者名典拠だが、NACSIS-CATが発足した当初

は書誌レコードと典拠レコードのリンクづけが必須で、その煩雑さのために登録レコードが増えないといわれた曰く付きの作業である。現在は必須ではなくなったが、結局70%の高率でリンクづけがされているそうである。⁴⁾これには自動検索、新規作成時の標目のはめ込みなど、システムの機能充実が大きく貢献していると思われる。また外国人はLCの著者名典拠が参照ファイルとして搭載されているのでほとんどヒットする。私の実感でも慣れればそれほど負担とは思えない。当センターの運用では、著編者の記述されている範囲は必須、それ以外(訳者、監修等)は準必須としてほとんどの典拠リンクを行っている。

問題となるのは同定が難しい場合だが、先にも述べたように幸い医学図書館では受け入れる図書は新刊がほとんどで、個人名、団体名、会議名とも調査がしやすい。

むしろ典拠コントロールという作業自体が日本の図書館にとってあまり経験のなかったことで、そのために典拠作業への負担感が大きかったのかもしれない。当センターも手作業時代は典拠ファイルを作っておらず、厳密なコントロールは行っていなかった。そのための戸惑いはあった。

当センターではNACSIS-CATへの所蔵登録と同時に学内にレコードをダウンロードしている。学内の他センターには洋書のレコードをOPACに提供しているところもあるが、当センターはカード打ち出しにのみ使っている。カード打ち出しのプログラムは三田情報センターのスタッフがオリジナルで開発したものである。打ち出しの際はまず当センターのNACSIS-CAT用端末を三田の大型計算機に接続し直してバッチジョブを流す。プリントアウトは、設備の関係で三田情報センターに依頼している。ここのスタッフが三田の計算センター内で作業し、塾内便とよばれる学内定期便でカードを送ってくれる。カードの仕様はできる限り従来の、オリジナルで作っていたものと整合

性を保つようにしてあるが、それでもいくらかの手直しが必要になる。例えば、NACSIS-CAT レコードはほとんど FULL MARC を流用するため概して従来のローカルなカード目録よりも詳細である。記述はそのままとしても副出指示の件数を減らしたり、標目をローカルな形に直す。印刷カードを使う場合と同じ要領である。また NACSIS-CAT のレコードには漢字の読みがカナしか入っていないので、副出指示のためにローマ字変換のモジュールを通して。しかし外来語は原綴とするといった細かなローカルルールまでは機械で処理できない。さらに階層のある書誌は思いどおりの形で出力は技術的に難しく、最初から別の方法でオリジナルカードを作成してしまっている。

目録システムは基本的には機械可読形態を原則としているので、やはり印刷媒体に出力するときには余分な労力が必要になるということだろう。

IV. 目録情報の特徴

NACSIS-CAT を利用すること、つまりオンライン共同目録に参加するあるいは総合目録データベースを構築するということで、作業の手順だけでなく目録情報の中味も大きく変わる。

既存の MARC から簡単に詳細な目録情報を得られる。一方、従来ひとつの図書館の中だけで発生から利用まで終始していた目録情報が、全国さらには国際的に流通することになる。オリジナルで新規作成したり修正を加える場合は一定の質を要求される。当然ローカルルールは馴染まない。入力基準は NCR 87, AACR 2 という 2 大メジャー規則を基本としているが、やはり相違がある。また、機械可読データ、総合目録データベースの特徴としてゆれを嫌う。既存の目録規則の中には選択の余地を残した別法、任意規定があるが、NACSIS-CAT ではこれらの採用の可否を綿密に

決めている。ただし、検討中の事項も多い。つまり結局はこれらの新しい規則に習熟する必要がある。

NACSIS-CAT のレコードの最も大きな特徴は書誌作成単位の基準と階層の表現である。以下の基準を書誌作成単位の根拠としている。「書誌単位は、固有の標題、著者等によって書誌的に他と区別できる単位とする」⁵⁾。この基準により、例えば「現代皮膚科学大系」のいわば目次情報のような「検査・実験法、治療、感染症、水疱・膿疱性疾患、薬疹・中毒疹、膠原病、代謝異常」⁶⁾も標題とみなされ、これをタイトルとした書誌が作成される。

階層を持つもの（いわゆるシリーズやセットもの）は最上位の書誌と最下位の書誌についてレコードを作成し、それぞれリンクづけることで表現する。中位の書誌については最下位のレコード中に記述するにとどめる。

これらの基準は特有のものであるため、参照 MARC とはくい違ふことがある。図 3 は LC/MARC と NC レコードの相違の例である。書誌作成者の判断の違いから、しばしば重複書誌作成の原因となる。目録情報の本質論はともかく、現実にはこの基準をのみこまなければならない。

当センターでは NACSIS-CAT の登録を始める準備として、接続前に講習会に 1 名が参加。（もう 1 名はおって参加。）担当 2 名が ひととおり NACSIS-CAT のマニュアルを通読し、ローカルルールの洗い出しや、内部の申し合わせなど行った。しかし、オペレーションについては 1 カ月ほどで慣れるが、入力基準についてはどうしても多様なケースそれぞれに遭遇しないと覚えにくい。そのため当初は曖昧な点が多く、入力途中でマニュアルをひっくり返す、問い合わせをするといった場面も少なくなかった。特に初期は、重複書誌を作成して先発の図書館に迷惑をかけたこともある。

言い訳をすれば、従来当センターでは目録は書

L C

```
<GA30931814> RECST:c
GND: SMD: YEAR:1987 CNTRY:uk TTL:eng TXTL: ORGL:
VOL:set ISBN:0407005102 PRICE: LCCN:87013828
TR:Scott-Brown's otolaryngology / general editor, Alan G. Kerr ; advisory
    editor, John Groves
ED:5th ed., Butterworth international ed
PUB:London ; Boston : Butterworths , 1987
PHYS:6 v. : ill. (some col.) : 26 cm
CW:1. Basic sciences / editor, David Wright
CW:2. Adult audiology / editor, Dafydd Stephens
CW:3. Otology / editor, John B. Booth
CW:4. Rhinology / editors, Ian S. Mackay, T.R. Bell
CW:5. Laryngology / editor, P.M. Stell
CW:6. Paediatric otolaryngology / editor, John N.G. Evans
NOTE:Rev. ed. of: Diseases of the ear, nose, and throat / Walter Graham
    Scott-Brown, 4th ed. 1979
NOTE:Includes bibliographies and indexes
AL:Kerr, Alan G. <>
AL:Groves, John <>
AL:Scott-Brown, W. G. (Walter Graham) <>
CLS:LCC:RF20
```

N C

親書誌

```
<BA01310200> CRTDT:19880119 RNWDT:19880119
GND: SMD: YEAR: CNTRY:uk TTL:eng TXTL:eng ORGL:
VOL: ISBN:0407005102 PRICE:
TR:Scott-Brown's otolaryngology
ED:5th ed
PUB:London : Butterworths
PHYS:
```

子 1

```
<BA01310142> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
LCCN:87014624
TR:Basic sciences / editor
ED:5th ed
PUB:London : Butterworth
PHYS:xv, 637 p. : ill., 20
```

子 2

```
<BA01310313> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
TR:Adult audiology / edito
ED:5th ed
PUB:London : Butterworths
PHYS:xiii, 657 p. : ill.,
NOTE:Includes bibliographi
```

子 3

```
<BA01310390> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
TR:Otology / editor, Joh
ED:5th ed
PUB:London : Butterworths
PHYS:xvi, 637 p. : ill.,
NOTE:Includes bibliograph
```

子 4

```
<BA01310506> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
TR:Rhinology / editors, Ia
ED:5th ed
PUB:London : Butterworths
PHYS:xv, 385 p. : ill., 20
NOTE:Includes bibliographi
PTBL:Scott-Brown's otolary
AL:Mackay, Ian S. <DA01904>
CLS:LCC:RF20
CLS:LCC:RF341
CLS:DC19:617/.51 s
CLS:DC19:617/.523
SH:LCSH:Nose -- Diseases//
SH:MESH:Nose Diseases//K
```

子 5

```
<BA01310583> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
TR:Laryngology / editor, P
ED:5th ed
PUB:London : Butterworths
PHYS:xiii, 459 p. : ill.,
NOTE:Includes bibliographi
PTBL:Scott-Brown's otolary
AL:Stell, P. M. (Philip M)
CLS:LCC:RF20
CLS:LCC:RF460
CLS:DC19:617/.51 s
CLS:DC19:617/.531
SH:LCSH:Throat -- Diseases
SH:MESH:Laryngeal Diseases
```

子 6

```
<BA0131062X> MARC:arrived
GND: SMD: YEAR:1987 CNTR
VOL: I
TR:Paediatric otolaryngo
ED:5th ed
PUB:London : Butterwor
PHYS:xv, 571 p. : ill
NOTE:Includes bibliog
PTBL:Scott-Brown's o
AL:Evans, John N. G
CLS:LCC:RF20
CLS:LCC:RF47.C4
CLS:DC19:617/.51 s
CLS:DC19:618.92/097
SH:LCSH:Pediatric ot
SH:MESH:Otorhinolary
```

図3. 書誌作成単位と階層表現の相違

同一の6冊セットの書誌。上がLC/MARC,下がNACSIS-CATのNCファイル中のレコード
親が「集合書誌単位」、子がそれにリンクづけされている「単行書誌単位」

誌の事項の記録という面よりも、ファインディン
グリストとしての機能を重視しており、カード時
代比較的簡単な目録しかとっていなかった。この
ため目録情報についてかなり勉強をすることになっ
た。

V. 今後の展開

学術情報センターの利用の手引⁷⁾ にもあると
おり、目録システムはローカルな機械化を支援す
るシステムとしても位置づけられる。

冒頭でふれたように、当センターでも学内の他

センターと共同で全業務の機械化を控えている。
準備中の新しいシステムは外部書誌ユーティリティ
としてNACSIS-CATを利用する。NACSIS-CAT
からダウンロードでローカルファイルに書誌を取
り込み、アップロードでNACSIS-CATへ登録を
行うというものである。この類のシステムは国立
大学図書館を中心にすでに数多く稼働している。
また立ち上げ時のデータとしてこれまでに登録し
たレコードを個別版MTで供給してもらい、セッ
トアップする。ちなみにこのMT作成は無料であ
る。学内の計算機にダウンロードしたデータを使
うことも考えられたが、新システムを想定してい

表3. 参照MARC収納状況

(1991年3月7日現在)

LC図書書誌 (V19 #07まで)
(1968.01-1991.02)
雑誌書誌 (V19 #01まで)
(1973.01-1991.01)
著者名典拠 (V14 #07まで)
(1977.01-1991.02)
統一書名典拠 (V14 #07まで)
(1977.01-1991.02)
J P 図書書誌 (V91 #09まで)
(1969.01-1991.03)
雑誌書誌 (V90 #01まで)
(1988 -1990)
著者名典拠 (センター作成)
UK 図書書誌 (N2128まで)
(1950.01-1991.02)
TRC 図書書誌 (#91008まで)
(1985.04-1991.02)
GPO 図書書誌 (V15 #01まで)
(1976.01-1990.01)

ないデータだったので、改めて個別版を取り寄せることになった。当センターでは新システム稼働時に、機械可読データとして、当センター内だけで収書業務のため1980年から蓄えてきた簡易書誌レコード約30,000件とあわせて、NACSIS-CATに登録したいわば完全書誌レコード約4,000件を備えることができる。

もちろんNACSIS-CATを使った遡及入力も可能である。参照MARCは表3のとおり、かなり古い年代までもカバーしている。学術情報センター側でも遡及入力の便を計るため、東京大学図書館との共同事業で、同図書館の蔵書のデータをカードから起こして参照レコードとして提供している。さらに接続館独自でもNACSIS-CATを使った遡及入力が行なわれ、かなりの件数が総合目録ファイルに登録されている。医学関係の例も2館ほど聞いている。当センターでも新システムのもとでNACSIS-CATを使った遡及入力を計画中である。

VI. おわりに

以上学術情報センター目録システムを使った目録作業について述べてきた。NACSIS-CAT導入は、目録業務にとって大きな変化で、移行の苦労もあった。しかし機械化はすでに避けられない道である。当センターでも全業務機械化へのワンステップとして学術情報センターとの接続があった。

NACSIS-CATは、日本で唯一の大規模書誌ユーティリティで、最も身近な目録システムになりつつある。先に接続した一私立大学医学図書館としては、仲間を増やしたいという希望を持つ。この報告が実務者の不安を取り除くと同時に共通の舞台に立つきっかけになれば幸いである。

この報告は1991年1月30日に慶應義塾大学医学部北里講堂にて開催されたセミナー「学術情報センターに期待する」での発表をもとに加筆したものである。

発表、執筆にあたって快く資料を提供してくださった学術情報センターの小西和信氏に深謝いたします。

引用文献

- 1) KUCC: Keio University Computer Center. No. 15. p. 48(1990) より転載.
- 2) 玉井裕子 医学書とJapan MARC. 明日の医学図書館へ向かって: 第12回医学図書館セミナー論文集. 日本医学図書館協会, 1985.
- 3) NC全体, NC新刊書のヒット率は以下の調査研究による. 石井啓豊 目録所在データベースの統計的分析分類と索引とデータベース: 山田常雄氏追悼論集, 山田常雄氏追悼論集刊行委員会, 1990.
- 4) 永田治樹 目録・所在情報システム: その展開と新たな課題. 情報科学と技術. 40 (3): 175-82.
- 5) 学術情報センター編. 目録システム利用マニュアル. データベース編. 改訂版 (目録情報の基準第2版). 学術情報センター, 1990.
- 6) 久木田淳他編 現代皮膚科学大系. 年刊版 '90-B, 1990.
- 7) 学術情報センター編. 目録・所在情報システム利用の手引. 改訂版. 学術情報センター, 1990.